

## 第8回福祉教育研究フォーラム・開会のごあいさつ

おはようございます。日本福祉大学学長の二木です。本日は祝日で、しかも猛暑の中、第8回福祉教育研究フォーラムにご参加いただき、ありがとうございます。

本フォーラムは、高校と大学の教職員の福祉教育に関する研究交流の場として、2007年に初めて立ち上げたのですが、それ以降毎年開催して、早いもので今年で8回目になります。このようなフォーラムが継続的に開催されているのは全国的にも珍しく、毎回、愛知県と三重県をはじめ、全国のたくさんの福祉系高校の教員の皆様（本年は10県、157人）にご参加いただいています。

このフォーラムには4つの特徴があります。第1は、福祉系高校教員を中心とした実行委員会と本学が主催し、高校と大学の教職員の協働による企画・運営を行っていること。第2は、本年も「総括講演」をしていただく文部科学省の矢幅清司教科調査官に、第1回から毎回ご出席いただき、最新の福祉教育課題の情報提供をしていただいていること。第3は、高校と大学が青年期の福祉教育の意義や実践について、相互に報告・協議を積みあげてきたこと。第4は、このフォーラムを通して生み出された「福祉教育当事者（高校生と大学生）による発表や交流の場」が毎年8月の高校生・大学生の集いとして発展したことです（今年は8月17日に、本学の美浜キャンパスで開催します）。

以上に加えて、今年のフォーラムには第5のすばらしい特徴が加わりました。それは、牧師で「北九州ホームレス支援機構」（7月よりNPO法人「抱樸」）理事長の奥田知志さんの基調講演『「助けてと言え国へ」—いのちの尊厳を伝えるということ—』です。私は、事前に、奥田さんと茂木健一郎さんの共著『「助けて」と言え国へ—人と社会をつなぐ—』（集英社新書、2013年8月発行）を読ませて頂いたのですが、奥田さんの、長年の実践に裏打ちされた実に深いお考えに感銘を受け、大いに共感しました。例えば、「学びは出会いだと思うのです。人は出会いで変わります」（28頁）、あるいは「プロとは『使命』という風が吹いたときに、それに身をゆだねることができる人」（138頁）等の名言です。言うまでもなく、福祉や介護の基本は「いのちの尊厳」を守ること、「人と社会をつなぐ」ことです。奥田さんの講演は皆様のこれからの教育活動、生徒指導にも大いに役立つと信じています。なお、奥田さんのお話しはぜひ多くの市民・福祉関係者・学生にも聞いて頂きたいと思い、「基調講演」のみ「公開講座」（定員50人）とさせて頂きました。ご了承願います。

最後に、本学の紹介を簡単にさせて頂きます。本学は昨年創立60周年を迎え、日本で最初の社会福祉学部を開設した、福祉系の老舗大学です。この60年間で、社会福祉の単科大学から、6学部4大学院研究科を有する「ふくしの総合大学」に発展してきました。さらに2015年度には名古屋市に隣接する東海市に看護学部を開設する予定です。なお、本学では近年の福祉の広がりや深まりを踏まえて、「福祉」を「ふくし」と平仮名表記しています。この点については別にお配りした私のインタビュー集をお読み下さい。

しかし、率直に申して、本学は少子化のため学生募集面では苦戦しています。それだけに、多くの福祉系高校から意欲的な学生さんをお引き受けしたいと思っています。福祉系高校出身者の受験学力は必ずしも高くありませんが、向学心は非常に強く、4年間の在学中のトータルな学力の伸び率は普通科高校出身者よりもはるかに高いため、大歓迎です。最後は本学の宣伝になりましたが、これで私の挨拶を終わらせていただきます。

2014年7月21日  
日本福祉大学学長  
二木 立